

所信表明文

- (ア) 氏名： 田中秀明
(イ) 卒年： 1992 年
(ウ) 委員会活動歴・抱負

1. 日本小児外科学会委員会活動歴

期間	委員会名	役職
2015 年～2018 年	教育委員会	委員
2019 年～2022 年	機関誌委員会	副委員長、委員長
2021 年～2022 年	PSI Publication Committee	委員
2023 年～現在	機関誌委員会	担当理事
同上	データベース委員会	同上
同上	PSI Publication Committee	同上

2. 抱負

このたび、2026 年度次々期会長に立候補いたします田中秀明です。本学会における委員会活動は上述のようになりますが、特に委員長を拝命した機関誌委員会では、査読者の割り振りや優秀論文の選定といった通常業務に加え、Authorship の定義、倫理審査、転載許可、論文種別の再定義など、投稿規定の改訂や運営の効率化に尽力いたしました。令和五年からは理事に選任いただき、日本の小児外科学の発展と次世代の育成のために知恵を絞る理事会の熱意を肌で感じ、学会運営の重みを噛み締めております。

福島に赴任して九年目を迎えようとしておりますが、地方の一大学を預かる身として日々痛感しておりますのは、加速する少子化に伴う症例減少と、それに伴う若手育成の困難さという切実な課題です。実際、私の赴任後、福島県内におけるいわゆるメジャー手術の件数は半減に近い水準まで減少いたしました。この現実、もはや一医局の努力だけで解決できる段階を越えております。

私自身、かつて移植外科の領域ではありましたが、カナダでのフェローシップにおいて日本の医局制度とは全く異なる環境での合理的かつ効率的なトレーニングの有用性を肌で感じました。日本の伝統的な医局制度の良さを堅持しながら、いかにして北米型フェローシップのような効率的な修練システムを取り入れ、次世代を育てていくべきか、福島の地で皆様と深く議論できる場を築きたいと願っております。

研究面におきましても、私の教室では大学院生を首都圏の研究施設や学内の基礎教室へと派遣し、研究体制の構築に努めておりますが、依然として十分な環境とは程遠いのが実情です。志ある若手医師が研究を断念することなく、臨床と両立しながら科学的な探究心を育める環境を整えることは、学会全体の急務であると考えております。

小児外科医療のアップデートのみならず、地方医局が支える地域医療、教育、研究のリアルを語り合い、次世代へ向けて発信する場として、福島で学術集会を開催させていただきたく思います。何卒よろしくご厚意申し上げます。